

「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」有識者会議（第2回） の概要について

1 要旨・目的

令和7年1月22日（水）に開催した「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画（仮称）」の策定に向けた第2回有識者会議の概要について報告する。

2 現状・背景

令和6年3月に策定した「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）」に掲げる県立高等学校の目指す姿の実現に向けた実施計画を策定するに当たり、学識経験者等による有識者会議を設置した。

3 概要

(1) 第2回有識者会議について

日 時：令和7年1月22日（水）10時～12時

場 所：広島県庁東館6階 審理審問室（オンラインによるハイブリッド開催）

参 加 者：教育やまちづくり、産業等の分野に関する有識者7名

主な議題：整備する学校・学科のイメージについて

(2) 第2回有識者会議における主な意見

- 学校・学科のイメージを縦軸の課程・学科の枠組に一对一で対応させるのではなく、縦にも横にも斜めにもまたがる配置にすることで、既存の学校・学科も大事にしつつ、新しく整備する学校・学科のイメージを表現できるのではないかな。
- キーワードに「イノベティブな学び」が加わったことで魅力的になったが、それがどのような学びであると考えているのかが伝わる説明にする必要がある。その際、生徒自らが価値を創っていくという「価値創造型の学び」という要素が入ってくるのではないかな。
- 「イノベーションの基盤となるデジタル・理数分野等の素養」という表現について、デジタル・理数分野の素養はイノベーションの基盤ではなく、効率的に実現させるための要素の1つという位置づけではないかな。この表現は「デジタル技術等を使って仕組みなどを作る領域」と「デジタル技術を使いこなす領域」があることを踏まえて、理系・文系という枠組みに捉われない表現に見直すべきではないかな。また、イノベーションには様々な分野が関わっており、例えば、デザインの領域も関係することも踏まえる必要があるのではないかな。

- 「多様な背景を持った」という言葉はネガティブに捉えられる可能性があることを考えると、「生徒の多様なニーズに対応した」という表現がいいのではないか。
- 私立の通信制課程を選択する生徒数が増えている中で、公立の定時制課程や通信制課程の学校・学科の整備イメージを分かりやすく表現し、学校の選択肢の一つとして魅力的に捉えられるように工夫することが必要ではないか。
- 「自分のペースで主体的に学べる」という部分で表現したいことを整理しつつ、魅力的な表現にするため、「学びをプログラムできる」のような言葉にすべきではないか。
- 「知識及び技術・技能を総合的に学べる学校」という表現は専門教育を主とする学科のことのように感じるので、イノベティブな学びを進めるためには、単に技術・技能を身に付けるだけではなく、物の見方や考え方、多様な他者と協働する力といった基礎リテラシーや「新技術への対応力・活用力」を育むことが必要ではないか。
- 生徒が自分の将来を描くためにも、現実社会を知る機会を設けることは非常に重要であるため、高等教育機関や企業等と協働した探究的な学びはぜひ進めていただきたい。
- 学校・学科のイメージの中には、コミュニティ・スクールの制度の中でカバーできるものもあると感じるので、既存の組織を活性化させることも含めて検討を進めていくべき。
- 生徒数が減っていく中で、どのような形で中山間地域に高校を残していくのかという点も1つのポイントではないか。例えば、オンラインの活用や中高一貫教育校の設置、下宿の整備といったことについて検討する必要があるのではないか。
- 参考になるような他県の先進的な取組等を紹介をしてほしい。

4 今後のスケジュール（予定）

	R6 年度							R7 年度										
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
内 容	実施計画（素案）作成							★	実施計画（最終案）作成									★
								素案公表										最終案公表
				● 第1回 有識者 会議	● 第2回 有識者 会議 【今回】	● 第3回 有識者 会議		● 第4回 有識者 会議		● 第5回 有識者 会議	● 第6回 有識者 会議							

「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画（仮称）」の策定に向けた
有識者会議（第2回） 次第

令和7年1月22日（水）10:00～12:00

広島県庁 東館 6階 審理審問室

1 開会

2 説明

前回の議事概要等について

3 意見交換

テーマ：整備する学校・学科のイメージについて

4 閉会

(1) 閉会挨拶

(2) 事務連絡

**「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画（仮称）」の策定に向けた
有識者会議（第２回）**

資料目次

資料１	「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」有識者会議（第１回） の概要について（令和６年１２月２３日教育委員会会議資料）・・・・・・・・・・	１
資料２	令和６年度広島県における高等学校数（国公立別・課程別）・・・・・・・・・・	３
資料３	広島県における高等学校生徒数（国公立別・課程別）・・・・・・・・・・	４
資料４	令和６年度広島県高等学校等配置図（国立・私立含む）・・・・・・・・・・	５
資料５	整備する学校・学科のイメージについて・・・・・・・・・・	６

「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」有識者会議（第 1 回）の概要について**1 第 1 回有識者会議の概要**

日 時：令和 6 年 12 月 4 日（水）14 時～16 時

場 所：広島県庁東館 4 階 教育委員会室（オンラインによるハイブリッド開催）

参 加 者：教育やまちづくり、産業等の分野に関する有識者 7 名

主な議題：実施計画の策定に当たっての方向性等について

2 第 1 回有識者会議における主な意見

- （資料 12 において実施計画の検討に当たってのキーワード案として「探究的な学び」、「実践的な学び」、「多様な学び」の 3 つが示されており、）各キーワードは広島県教育委員会がこれまで伝統的に大切にしてきたものになっているが、10 年後を見据えたときには「イノベーション」という要素もあった方がよいのではないかと。
- キーワードに 10 年後においても普遍的な要素を入れることも重要で、県立高等学校の強みである地域との繋がりを普遍的な価値として大きく位置づけるべきではないかと。
- 現在のキーワードはどの都道府県においても共通のものに感じるので、広島県らしい言葉も入ってくるとよいのではないかと。
- 基本計画（第 2 期）からキーワードを通して実施計画の内容に繋がっていくという単線的な形になっているが、実際には、各キーワードが各取組の重心にはなるものの、重なり合う部分に位置づく内容も出てくるのではないかと。
- 高校生を中心とした視点から実施計画を表現するなど、主体である子供たちが見てわくわくするようなものにしてほしい。
- まちづくりの中で、地域に高校生が存在しているということは大切なので、県立高等学校は地域における高校生の役割を見据えた配置が必要ではないかと。その際、授業や部活動において、人数が少ないことによる不利な面を軽減する支援やアイデアの実現が必要だと考える。
- 10 年後には、現時点における最先端の技術等は既に古くなっているので、高校生段階では、例えば、物の見方や考え方、多様な他者と協働する力のような基礎リテラシーと新技術への対応力の育成を並行して進めるべきではないかと。
- 県立、私立、市立などの高校がある中で、県立高等学校がどういう役割を果たすべきなのかという視点も必要ではないかと。
- 中学校等卒業後の進路状況についても踏まえる必要がある。
- 学校教育を社会教育や地域活動等に繋いでいく設計が必要ではないかと。
- 生徒が将来的にどのように社会的な役割を果たしていくのか、そして、社会的な役割を果たすことを通じて誇りを持ったり、やりがいや生きがいを感じられたりするように、働くということを肯定的に捉えられるキャリア教育を進めていくことが必要ではないかと。
- 税金で様々なことを賄わなければいけないという現実的な問題もあるので、今後、予算等に関する議論も必要になってくるのではないかと。

3 今後のスケジュール（予定）

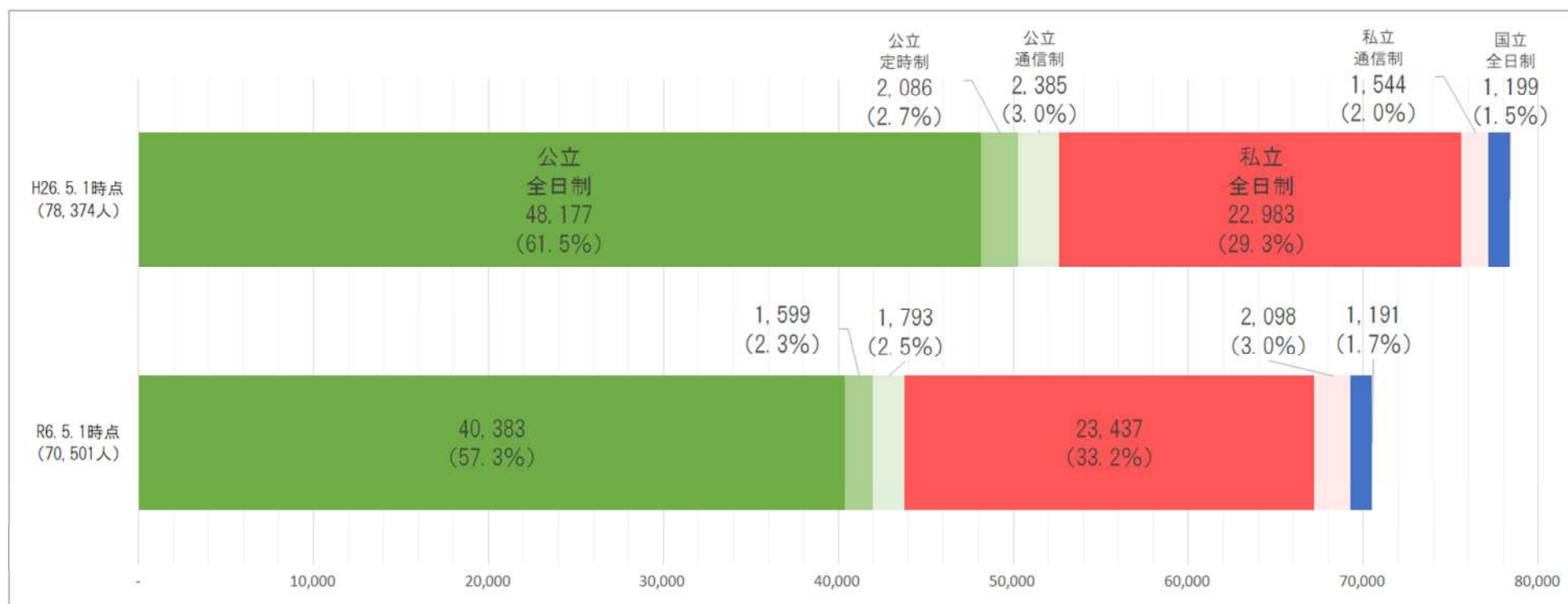
	R6 年度							R7 年度										
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
内 容	実施計画（素案）作成							★	実施計画（最終案）作成									★
	素案公表																最終案公表	
			● 第1回 有識者 会議 【今回】	● 第2回 有識者 会議	● 第3回 有識者 会議		● 第4回 有識者 会議		● 第5回 有識者 会議	● 第6回 有識者 会議								

令和 6 年度広島県における高等学校数（国公立別・課程別）

区 分				公 立 計	国 立	私 立	計
		県 立	市 立				
全日制	本 校	77	8	85	2	35	122
	分 校	1		1			1
定時制	単独校	1	1	2			2
	併置校	12		12		(1)※	12
	分 校						
通信制	単独校	1		1		3	4
	併置校					4	4
	分 校					1	1
フレキシブル			1	1			1
合 計 (併置校・分校を除く)		79	10	89	2	38	129

※募集停止中

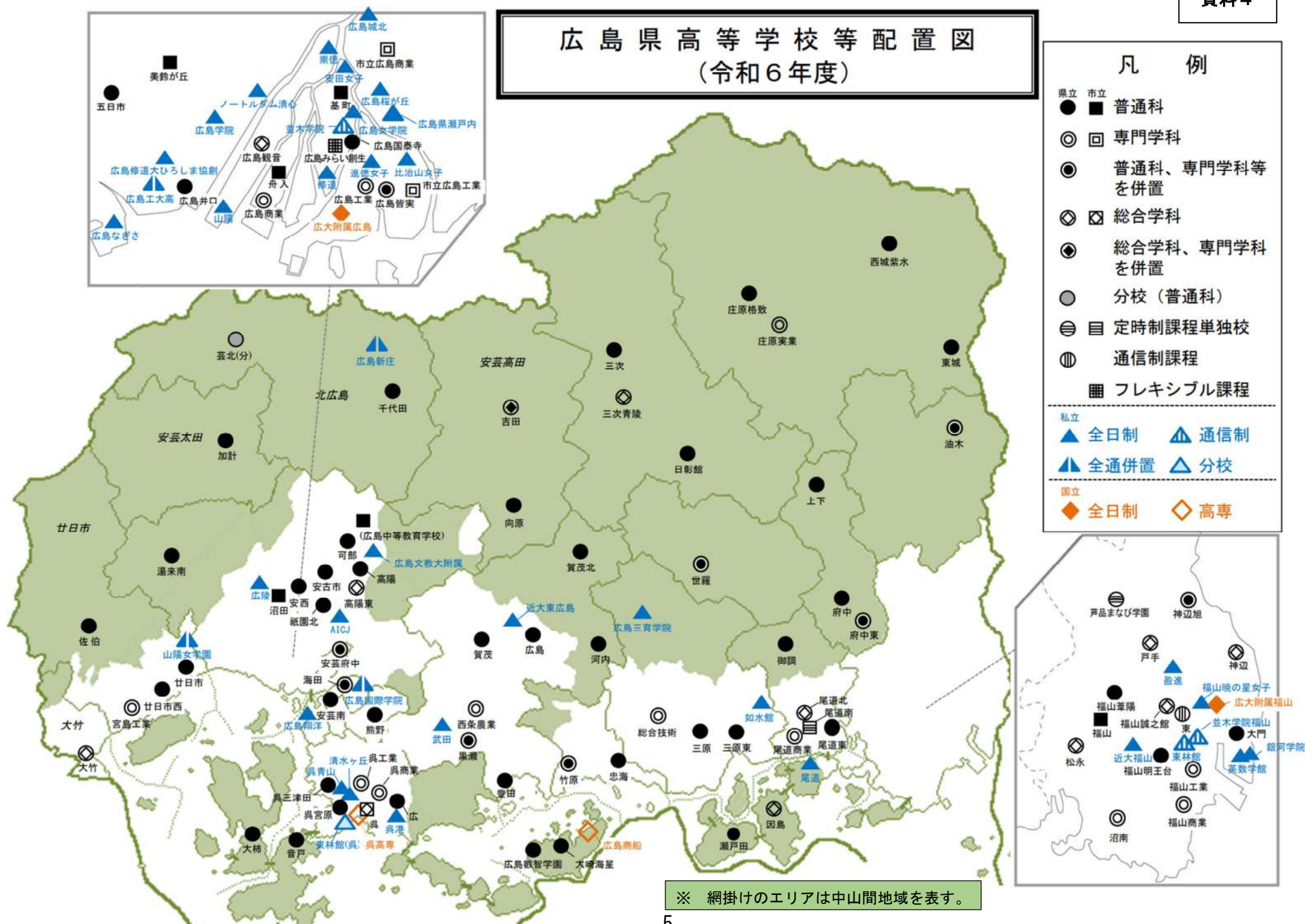
広島県における高等学校生徒数（国公立別・課程別）



広島県高等学校等配置図 (令和6年度)

凡 例

- 県立 市立
 ● ■ 普通科
 ◎ □ 専門学科
 ◎ □ 普通科、専門学科等を併置
 ◎ □ 総合学科
 ◎ □ 総合学科、専門学科を併置
 ● 分校（普通科）
 ◎ 定時制課程単独校
 ◎ 通信制課程
 ◎ フレキシブル課程
-
- 私立
 ▲ 全日制 ▲ 通信制
 ▲ 全通併置 ▲ 分校
-
- 国立
 ◆ 全日制 ◆ 高専



※ 網掛けのエリアは中山間地域を表す。

整備する学校・学科のイメージについて

		《探究的な学び》	《実践的な学び》	《多様な学び》	《イノベーティブな学び》
		○文理横断的な学びの推進 ・STEAM教育 ○学科・コース等における学びの更なる魅力化 ○協働体制の構築 ・高等教育機関・地域の関係機関等	○キャリア教育の充実 ・自らの進路希望に応じた学びの主体的な選択 ・自己の将来の生き方や進路についての自覚を深める学習の充実 ○実践的・体験的な学習活動の推進 ・地域産業界や、他校・他学科との連携	○多様な背景を持つ生徒のニーズへの対応 ・自分のペースで学びたい生徒 ・外国籍の生徒 ・特別な配慮を必要とする生徒 ○自立した学習者の育成 ・人間関係の構築 ・自己の良さや可能性の認識 ・多様な人々との協働	○既存の枠組みに捉われない新たな学び ○学科横断的な学びの創造
全日制課程	普通教育を主とする学科	実社会における複合的かつ分野横断的な社会的課題に着目し、高等教育機関等と協働して探究的に学べる学科			
	専門教育を主とする学科	地域社会が有する課題や魅力に着目し、地域の資源を活用して実践的・体験的に学べる学科			
	総合学科	各分野の最先端の専門的な知識・技術及び技能を身に付けるとともに、時代の変化に柔軟に対応できる資質・能力を育てる学科			
	定時制課程 通信制課程	イノベーションの基盤となるデジタル・理数分野等の素養を体系的・実践的に学べる学科			
		地域産業界等と連携した実践的・体験的な学びを通して、自己の在り方生き方を追求できる学科			
		自分のペースで主体的に学べる学校			
		多様な背景を持った生徒のニーズに対応した学びの機会が保障されている学校			
		社会の持続的な発展に関わる幅広い知識及び技術・技能を総合的に学べる学校			

基本計画（第２期） 課程・学科等の在り方 （取組の方向性）			現状・課題		整備する学校・学科のイメージ
			＜基本計画（第２期）における記載内容＞		
全 日 制	普通教育を主とする学科		○多くの生徒がいわゆる文系・理系に分かれ、２年次以降、特定の教科について十分に学習しない傾向があることが指摘されている。 ○大学等において学びを深めたり、実社会で様々な課題に接したりする際に必要となる力を身に付けるために、探究的な学び・STEAM教育等の文理横断的な学び・実践的な学びを推進していく必要がある。	○実社会における複合的かつ分野横断的な社会的課題に着目し、多様な考えを持つ他者や関係機関等と協働しながら、文系・理系といった類型や各教科の枠組みに捉われない学際的・複合的な解決策を考える探究的な学びに取り組むことが必要である。 ○こうした学びを体系的・継続的に実施していくため、高等教育機関等との協働体制の構築等、新たな仕組みづくりが必要である。	○実社会における複合的かつ分野横断的な社会的課題に着目し、高等教育機関等と協働して探究的に学べる学科
				○生徒が社会課題を自分事として捉えていくために、現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目し、地域の資源を活用した実践的・体験的な学びに取り組むことが必要である。 ○こうした学びを体系的・継続的に実施していくため、地域の関係機関等との協働体制の構築等、新たな仕組みづくりが必要である。	○地域社会が有する課題や魅力に着目し、地域の資源を活用して実践的・体験的に学べる学科
	専門教育を主とする学科	職業系	○近年、第４次産業革命の進展、DX、６次産業化等により、産業構造や仕事内容が急速に変化している。 ○地域産業界や、他校・他学科とも連携しながら、実践的・体験的な学習活動を推進し、地域の持続的な成長・発展を牽引する職業人材を育成していく必要がある。	○地域の持続的な成長・発展を牽引する職業人材の育成に当たっては、物の見方や考え方、多様な他者と協働する力のような基礎リテラシーの育成と新技術への対応力の育成を並行して進めていく必要がある。 ○新技術への対応力の育成のためには、加速度的な変化の最前線にある地域産業界と連携した新たな仕組みづくりが必要である。	○各分野の最先端の専門的な知識・技術及び技能を身に付けるとともに、時代の変化に柔軟に対応できる資質・能力を育てる学科
		普通系	○生徒の多様な可能性を伸ばすために、高等教育機関等と連携・協働するなどして、高度で特色ある教育を一層推進していく必要がある。 ○DXや地球温暖化と関連して、今後、デジタルやグリーン（脱炭素）をはじめとする成長分野において活躍する人材の育成が求められている。 ○高等学校段階において、理数分野の素養などを身に付けた人材を育成していく必要がある。	○社会におけるDXを担う人材の育成に向けて、情報や情報技術を受け身で捉えるのではなく、主体的に選択し活用していく力を身に付けるために、社会の様々な事象を情報技術を用いた問題解決の視点で捉え、情報の科学的理解に基づいた情報技術の適切かつ効果的な活用と関連付け、新たなシステムやコンテンツ等を地域や産業界と協働して創造していく実践的・体験的な学習活動を可能とする新たな仕組みづくりが必要である。 ○イノベーションの創出を担う科学技術人材の育成に向けて、高等教育機関等と連携し、自然科学を主とする先進的な科学技術、理科・数学教育に関する研究開発を、体系的・継続的に実施できる新たな仕組みづくりが必要である。	○イノベーションの基盤となるデジタル・理数分野等の素養を体系的・実践的に学べる学科
	総合学科		○普通科と職業系専門学科を併設する学校を総合学科に改編することを検討する。 ○普通教育を主とする学科や専門教育を主とする学科を設置する学校を総合学科に改編することを検討する。	○近年の技術革新に伴い、産業界では特定の専門分野のみならず様々な分野に関する知識・技術が求められるようになってきている。 ○多様な分野に関する知識及び技能や、異分野と協働する姿勢といった資質・能力を育成する教育活動を一層推進していく必要がある。	○地域産業界等と連携した実践的・体験的な学びを通して、自己の在り方生き方を追求できる学科

基本計画（第２期） 課程・学科等の在り方 （取組の方向性）		現状・課題		整備する学校・学科のイメージ
		＜基本計画（第２期）における記載内容＞		
定時制課程 ・ 通信制課程	○フレキシブルな学びを提供する学校を新たに設置することを検討する。	○自分のペースで学ぶことのできる通信制課程に入学する生徒数がこの１０年間で約２倍になっている。 ○生徒が人間関係を築きながら、自己の良さや可能性を認識し、多様な人々と協働する機会を、デジタル技術も活用しながら、より一層充実させていく必要がある。	○通信制を希望する中学生が増加傾向にある背景には、生徒の学習ニーズが多様化していることが考えられる。 ○生徒の多様な学習ニーズに応える柔軟な学びの実現に向けて、多様な背景を持つ生徒が、自身の生活スタイルや、興味・関心、進路希望等に応じて、自分に適した学びのスタイルを選択し、自分のペースで主体的に学べる多様な学びの選択肢の提供が必要である。	○自分のペースで主体的に学べる学校
			○本県においては、既に様々な場所や分野で、貴重な戦力として外国人材が活躍しており、今後、人手不足が深刻となる特定産業分野においては、外国人材の受入拡大が見込まれている。 ○外国にルーツをもつ生徒や不登校経験のある生徒等、多様な背景を持った生徒の多様なニーズに対応した学びの機会を確保する必要がある。	○多様な背景を持った生徒のニーズに対応した学びの機会が保障されている学校
総合型 高等学校	○新たな総合型高等学校の設置を検討する。	○職業人に求められる専門的な知識及び技術・技能が拡大化・高度化している。 ○各専門分野の基礎・基本を身に付けながらも、他の分野について広く総合的に学習し、多様化・複雑化する社会の実状に対応できる幅広い知識及び技術・技能を兼ね備えた人材を育成していく必要がある。	○将来の予測が困難なこれからの時代において、本県の持続的な発展を担う人材には、各専門分野に関わる知識及び技術・技能等の高い専門性と、多様な分野、多様な職種の人々と協働して課題を解決することができる資質・能力が必要である。 ○変化の激しい社会に対応した高い専門性や、答えのない問いに立ち向かい、多様な立場の者と協働的に議論し納得解を生み出す力を身に付けていくために、教育課程内・外を視野に入れた学校・学科横断による探究的な学習を充実させる必要がある。	○社会の持続的な発展に関わる幅広い知識及び技術・技能を総合的に学べる学校